

平成29年度

第2回文京区アカデミー推進協議会

議事録

文京区アカデミー推進課

日時：平成29年7月19日（水） 18:29～20:40

会場：文京シビックセンター5階 区民会議室A、B

委員：第1回会議資料名簿のとおり 欠席：1名 井上 委員

事務局：アカデミー推進部 田中部長・アカデミー推進課 竹越課長・観光・国際担当
鈴木課長・スポーツ振興課 木村課長・オリンピック・パラリンピック推進担当 横山課長

議事：

○水越会長 それでは、始めたいと思います。まだ少し時間が早いかと思いますが、井上さんはきょう御欠席ということで、それ以外の方はほぼおそろいになっているかと思えますので、第2回の全体の推進協議会になりますが、始めさせていただきたいと思えます。

それでは、資料等について事務局のほうから御説明をお願いします。

○竹越課長 皆さん、こんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今、会長のほうからお話がありましたとおり、井上委員から御欠席の連絡をいただいております、それ以外は全員出席ということです。

本日の資料につきましては席上に置かせていただいております。「平成29年度文京区アカデミー推進計画進捗状況の評価について」を次第とあわせて配付させていただきました。

あわせて会議録を配付させていただいたのですが、これはまたご覧いただき修正等があれば事務局までお知らせいただきたいのですが、1回目の会議録を見開きで開いていただきまして、1か所だけ訂正がございます。一番上から「日時」「会場」「委員」と書いてありますが、委員の欠席のところで奥村委員が欠席だったので、**「奥山委員」**となってしまっておりますので、修正をしていただければと思います。奥村委員、申しわけございません。

また、ほかの分科会の記録も参考につけさせていただきました。後でまた議事の中でお使いになると思いますが、ごらんいただいて気になる点、また、明らかに間違っている点がございましたら、後ほど事務局までお知らせいただければと思っております。

また、きょうは委員会室なものですからマイクの使い方について説明させていただきます。マイクは上のほうにあります自由にか動かさず、発言のときに自分のほうに向けていただき、手前にボタンがございます。ここを押すと赤いランプがつきます。ランプがついたらお話しただければと思います。恐縮ですが、3か所以上同時に使えないので、お話が終わったら一回切ってくださいという形、発言のときに押してランプがついたら発言いただき、終わったら切ってくださいということでよろしくお願いいたします。

説明は以上です。

○水越会長 ありがとうございます。

それでは、進めていきたいと思えますけれども、きょうは5つの分野について3グループに分かれて、それぞれ2回ずつ分科会をやったわけですね。附箋や模造紙などを使って

いろいろ意見をグルーピングしたりというようなことをやってきました。その記録というのが、先ほどおっしゃっていただいた概要記録となっているところにポツでばあっと並んでいるようなことになっています。

繰り返しになりますが、きょうはそれを踏まえた各分野の評価シートを皆さんで確認していくということになります。

繰り返し言うと、このワークショップでやった事柄を、事務局のほうでそれを項目として挙げてもらって、それを踏まえながら評価の資料ができたということです。

この評価が、いわばいろいろなところで活用される資料になりますので、我々が評価したことがここにあらわれているということですから、内容が大丈夫かということ、それから、こういう言い方でいいかといったようなことについて見ていくということになるかと思えます。

それからもう一つ、5分野を横断する、あるいは5分野のうち複数分野を横断する横断的な施策というものがあります。これについては、我々はどのグループでもまだ話をしておらず、きょうここで5つの分野について吟味をした後に、その横断分野についての内容を吟味するというような運びになります。なので、5つの分野をちゃんと吟味し終わるのが8時ちょっと前ぐらいだとうまいぐあいに終われるのかなというふうに思っております。

それでは、これを順番に生涯学習から、田中先生にヘッドになっていただいたところから順番にやっていきます。生涯学習があって、生涯学習はボリュームが大きいもので1つだけだったのですけれども、それ以外、スポーツと文化芸術というのがペアになって、私を取りまとめでここにいる3分の1ぐらいの皆さんとそれをやらせていただいて、それから、久松先生が中心になられて観光と国際交流というのをやっていったわけです。なので、生涯学習、スポーツ・文化芸術、観光・国際交流という形で進んでいくことになると思えます。もちろんスポーツと文化芸術は別々なので、それは別々に立てながらやっていくということになります。よろしいでしょうか。

少し資料を見ながらやや駆け足でということになりますので、皆さんのほうで、「今、どこを話しているのだ」とか、あるいは「ちょっと待ってください。先ほどの話なのですけれども」ということがあったら、随時これを押してとめてもらえればというふうに思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

(「はい」と声あり)

○水越会長 それでは、差し当たり、それぞれの分野に担当していただいた事務局のほうから概要説明をしていただきます。それに生涯学習で言えば、田中先生から補足等をしていただいて、かかわった皆さんのほうからさらに補足をしていただいたり、あるいは、それに関係しなかった皆さんから、これはこういう言い方でいいですかというようなことを言ってもらったりという形で進めていきたいと思えますけれども、よろしゅうございますか。

それでは、まず、生涯学習について事務局のほうから説明をお願いいたします。

○竹越課長 それでは、アカデミー推進課長の竹越より、生涯学習の分野について御案内をさせていただきます。

まず、資料1ですけれども、今後いろいろな部課にフィードバックする、また、議会等に報告するというようなことも考えて、皆様からいただいた意見を最終的にここまでブラッシュアップした形で取りまとめをしております。全体に5つの分野については、同じ形式でお示しをしています。それぞれの分野について座長にその分野の総括的なお話をしていただいて、最後に会長から総評をいただいて、最終的な評価というつくりになっています。

1枚目は全体的な説明してございます。評価については、28年度の実施事業について評価をしたということ。1回目の協議会で評価のやり方について御意見を頂戴して、最終的にこういう形での評価をまとめたということ。2回目の協議会では、委員の皆様から全体についての御意見をいただいて最終的な評価としてとりまとめた形になっています。

1枚めくっていただいて、2、3ページ目が生涯学習の分野になります。

3つの柱立てに対して、それぞれワークショップという形で委員の皆様からまずは自由に意見をいただいて、それを座長のいろいろな取りまとめ、進め方によって、その意見を集約するような形でさらなる意見交換を進めていく形で、このように2、3ページ目でまとめました。

まず、「いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」というところで、「取組状況の評価」は、現在のいろいろなものの取組み状況について、これは非常に充実しているよとか、これは非常に有益であるというような形でいただいた御意見を取りまとめています。

「課題と今後の対応・方向」につきましては、特に近隣の大学等との連携とか、発展型の学習事業を行政自身が提供するのかどうかも含めて検討する必要があるという意見を記載しています。

また、講座の提供の仕方については、新しい生涯学習の形態とか学習機会を開発することが求められているというような形で大きくりの御意見をここに記載しております。

また、特にたくさん出た意見の中では、広報の手段としては年齢層や対象によって、区報だけではなくSNSとかスマホを使って情報提供をいろいろな形で進めてもらいたいという意見が出ていました。

2番目の「一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実」につきましては、特に学習成果の発表とかボランティアとしての活用を場を充実させる。また、それを循環的に発展させる仕組みというものを考えていく必要があるだろうという形での御意見の取りまとめになっています。

また、3番目の「学びの継続を通じたまちづくり」のところでは、講座とか講習を通じて学んだ区民の皆さんが地域活動や行政との協働の活動の場に参加しやすい土壌をどうやって提供していくのか、そういうことが求められているという形での記載になっています。

以下順次それぞれの事務局から、まずは全体3つの分科会について御説明をさせていただいた後に、よろしければそれぞれの座長の先生方にまた補足の御説明をしていただくという形でよろしいでしょうか。それとも、分科会ごとに説明しますか。

○水越会長 どちらかというと忘れてしまいそうなので、まず、生涯学習について田中先生にも御意見をいただいと。よろしいですか。

○竹越課長 わかりました。それでは、全体の説明ということで、あとは田中座長にお願いいたします。

○田中委員 そうすると、この冊子に基づいてやったほうがいいですよ。

○水越会長 そうです。

○田中委員 今、私が話すのは、もう私の説明は一応これで終わりという形になりますよね。要するに、事務局が一通り話して、あとそれぞれがというふうになっていたと思うのですけれども、そうではなくて、今のお話では、まず事務局が生涯学習分野をやった後で、私が生涯学習分野のことを話すということですね。

○水越会長 はい。要は、分野ごとに一回一回区切ってやっていくというふうに思っていますけれども、よろしいですか。理由は、事務局に全部説明してもらおうと忘れそうな感じがするので、一個一個がいいかと思ったのですけれども、よろしいですかね。

(「はい」と声あり)

○水越会長 ですから、先生のほうからは、先生の総括を中心にポイントを言っていたければというふうに思います。

○田中委員 そうですね。わかりました。

では、資料1の2ページから3ページの箇条書きのというよりは、最後に書いた4ページの総括のところを見ながらがよろしいですか。

では、個々のことはまた2、3ページを見ていただければわかりますので、一応私のほうから総括ということで4ページに基づいて簡単にお話をしたいと思います。といってもこれはかなりポイントをまとめているので読む形になると思いますが、よろしいですか。

(「はい」と声あり)

○田中委員 では、まず、生涯学習分野は3つの柱がありました。1つは、主に学習機会の提供という問題です。それについては、文京アカデミア講座を中心としてかなり多様な講座が提供されている。一方で他機関としての大学などとの連携も充実していて、区民の学習機会としてはかなり整っているというふうに総合的に見ることもできます。ただ、今後いろいろ課題はあろうということで、1つは基礎的なレベルについてはかなり網羅的になされているのですけれども、もう少し発展的な学習をしたいという人に対してのサポートをどういうふうにするか。実際に行政が主体となって講座を組んでいくのか、あるいは、大学とか企業の研究所とかそういうところを紹介しながら外部と接続しながらいくのか、そのあたりの課題があろうということが出ました。

それから、学習の形態については、ワークショップなど新しい形態の学習機会を提供し

ながら、ただ知識を吸収するだけではなくて知識を生み出していくような、また、学び合いを促進するような、そういう機会を広げていく必要があるのではないかということ。

さらには、どちらかという中高年がかなり参加している学習機会が多いと思われまので、若年層に対する広報を工夫するとか、さらには、講座を終了した後、自主グループがどんどん生まれて、自分たちで学び始めるということをもっと促進するというようなことで、一言で言うと学習活動の広がりや深まりをもっともっと促す方策が必要だろうということが検討されました。それが1点目です。

2つ目の柱は、次の段落ですが、学習成果の発表とか活用という問題です。これについては、いろいろな形で生涯学習司であるとか、区民プロデュース講座、インタープリターの企画による講座、さらにはアカデミアサポーターとか、区民がいろいろな形で学習の機会に参画する。要するに、企画をしたり、運営側に回るとか、そういうことがかなり行われているので、特色ある事業としてこのあたりは高く評価できるのではないかというふうに思いました。

特に区民プロデュース講座、インタープリター企画講座、これらは区民自身が企画して提供するものなので、区民ニーズに的確に対応する特色ある事業となっていると思われます。

そのほか、生涯学習司による学習相談、アカデミアサポーターによる講座運営の支援など、区民が学習成果を生かす仕組みが整っているというふうに見ることができるでしょうというふうに考えております。

今後は、自主的な学習活動としての重要性が高い、俗に言う社会教育関係団体といいますか、これは伝統的な社会教育の仕組みの一つですけれども、このあたりが、今、何年かに一度しか団体の確認ができていないようなので、もう少し頻度を上げて実態がきちんとあらわれてくるようにしたほうがいいのではないかということが議論されました。

さらには、学習成果の発表とボランティア活動による活用というものをつなげていって、学習活動と発表ないしは活用というものが循環的に相互に影響を及ぼしながら相乗効果を持って発展していくというようなことが期待されるというふうに考えました。それが2本目の柱です。

最後3本目は、町づくりとの関係です。これは、学びの継続を通じた町づくりというような側面から計画が進行しておりますけれども、1つは、一般行政の各課がかなりいろいろな形の内容の学習事業を提供しているということ。それから、「文京学」講座というものが行われているということ。そういうことによって、地域の課題を考えるための学習機会が充実しているというふうに見ております。

今後の課題としては、こういった学習を通してコミュニティーづくりとか、さらには区民ネットワークを形成していくとか、あるいは地域課題を解決するための具体的な市民活動がぼんぼん盛り上がっていくとか、そういったことが期待されるというふうに考えております。

また、地域アカデミー施設では、当該地域の資源活用を含め、地域特性を活かした学習事業が一層充実することが期待されるというような議論がなされました。

以上です。よろしくお願いします。

○水越会長 ありがとうございます。

生涯学習分野のワークショップに関係してくださった皆様のほうから何かございますでしょうか。特に、今、生涯学習について2ページ、3ページで説明していただいたこと、当然これに全ては盛り込まれていませんけれども、ポイントとして重要なことがここにあるかといったようなことはいかがでしょうか。

○田中委員 分科会の方で、もう少しこの辺がというのがあれば遠慮なくおっしゃってください。議論のまとめを事務局と私のほうで調整しながらまとめているので、もし何かありましたら、どうぞおっしゃってください。

○増田委員 増田でございます。

区民による企画の講座なのですけれども、インタープリターだけではなくて、学習支援者のサポートも含めて、私たち学習支援者と呼んでいるのですけれども、それに表現を直していただいてよろしいでしょうか。

○田中委員 なるほど。

○水越会長 そのほうが全体的な呼び方なのですね。

○増田委員 全て学習に関係している人間がやっているのです、よろしくお願いいたします。

○田中委員 わかりました。

○水越会長 ほかの分科会で参加されていて、これを初めて見る方々のほうから何かありますでしょうか。

最初なので、ほかと比べて後でこうだということがあるかもしれませんので、とりあえず生涯学習に関しては一旦これでオーケーということで、次のほうに進めていきたいと思えます。よろしゅうございますか。後で何かまたお気づきになったら言っていただければというふうに思います。

続いて、スポーツに入りたいと思います。また事務局のほうから説明をお願いできれば。木村さんになりますでしょうか。

○木村課長 それでは、2番スポーツのほうです。概要の説明をさせていただきます。

スポーツのほうは4本の柱で話し合いを進めてきたところでございます。

まず、1番の「スポーツを身近に感じる機会の拡充」というところに関しましては、おおむね皆様の意見は、ここはいろいろなことをやっているよねというところの話があったかと思えます。

課題といたしましても、今後、スポーツ団体、区内企業はまだまだありますので、そういったところと協定をさらにふやして、皆様が身近に感じる機会を拡充していくことが大事なのではないかというようなお話があったと思います。

また、2番の「いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進」と

いうところでは、やはりいろいろな事業で多種多様のメニューをやってはいますよねという評価をいただいております。しかしながら、課題といたしましては、そういったいろいろなものがあるのだけれども、新規にスポーツを始めたい人とかに情報がなかなか行き届いていないのではないかという意見もございました。なので、そういった方向けにスポーツフェスをやったり、イベントでスポーツ紹介ブースなんかもいいのではないかということでお話をいただいたところです。

3番の「スポーツ活動を支える環境の整備」に関しましては、区内の小中学校も利用したいいろいろなことをやっていますよねという評価は、こちらも言っていただいております。しかしながら、区内施設のキャパシティがいっぱいということなので、大学との連携とか、そういったものも今後さらに進めていったほうがいいのではないかという意見が多かったです。

また、文京区ならではの坂道がいっぱいあるので、そういった坂道を活用した何かスポーツみたいなものはできないのかという意見もございました。

4番の「スポーツを通じた仲間づくりと交流」という部分に関しましても、「取組状況の評価」といたしましては、いろいろなことをやっていますよねということは皆様からいただいたところではございますが、こちらの課題につきましても、今、一定の大学との連携はしておりますけれども、まだまだ区内には大学がいっぱいありますので、ほかの大学とももっと組織的に連携を図って、そういったスポーツの事業の発展に努めていくことも大事だよねというお話もございました。

スポーツに関しては以上です。

○水越会長 ありがとうございます。

総括が田中先生のと比べて随分短く淡白なのですけれども、別にやる気がなかったわけではないので、ちょっと弁明をしておきます。

今、木村さんのほうから非常に明快に評価点、課題点を言っていただいたとおりに思います。全体的には非常によく動いていて、もろもろの稼働率みたいなものも非常に高いということが評価できるという全般的な我々の考えでした。ポイントとなるのは、1つは初めてスポーツをやろうとか、新しく区民になった人たちが、どこで何がどういうふうになされていて、どういうふうにならなければいけないかということがわかりにくい状況があって、そういうことができるような一堂に会する場であるとか、そういう情報をわかりやすいメディア、あるいは窓口を充実させる必要があるだろうということです。

もう一つは、場所とか指導者等々で、区内がある意味でいっぱい動いていまして、この文京区がアカデミーという言い方をしているのは、大学があるわけですから、何とかうまく大学と連携して指導者に来てもらう、学生さんたちと交流する場所を提供してもらう等々のことができないかということをごポイントとして総括で書いておいた次第です。

スポーツの分科会に入ってくださいました皆さん、補足その他がありましたら、ぜひお話し

やっただけだと思えます。

○白井委員 スポーツの分科会に入っていたわけではないのですけれども、前から文京区に住んでいて思っているのですけれども、区役所の中にジムがありますよね。それがあるのを私は全然知らなくて、施設がわかりにくいというところで、一度見学に行っ、ここにこんな広いジムがあったのだというのを初めて知ったのですけれども、その広報が全然わかっていないのと、それは区が運営しているのか、あるいは区がどこか業者に貸してそれをやっているのかということ等、そうすると料金的にも随分違ってくると思うので、そういうところの認識も全然わからなかったというところがあります。

それと、ちょっと一部の人から聞いたのですけれども、これからオリンピック・パラリンピックというときに、文京区から出る選手がいるのだという話を聞いて、それは知らなかったという話があって、何でもっと文京区でそういう人たちをフィーチャーして応援するというような盛り上がりみたいなものをつくってもいいのかなというふうに思っていました。

以上です。

○横山課長 文京区のオリンピック・パラリンピック担当の横山と申します。

今のいただきました後半のお話の部分なのですけれども、リオの大会のときには、まだ我々も集められる情報を集めた段階で、具体例を出しますと、千駄木小学校に棚村選手という水球のゴールキーパーの方が今回出場されたといった情報をいただいたので、区役所で壮行会という形でイベントを打って送り出したとか、あとは講道館の中に視覚障害者柔道という日本協会がごございますので、そちらのほうでパラリンピックでメダルをとられた方のメダル報告会を区のほうでやっていただいたり、そういった形での開催をやっていたのですけれども、多分今回のテーマの中にかかなり出てくると思うのですが、情報の発信とか、あるいはそこをどこまで広く伝えられるかというところは大きな課題かと思いますが、そこは今後充実をさせていくことにしまして、一定のお披露目であるとか周知というのは引き続きやっていきたいと思っております。

○竹越課長 シビックセンターの中にマシンのジムがあるというお話ですけれども、保健サービスセンターでそういう活動をしておりまして、主に区民の皆さんの健康増進を主とした活動の一つの場として使っているのです、一般的な民間のジムのように自由にいつでもやってきて好きにできるというものではなく、申し込みがあって、手続をして、会員になった場合に、決められた時間の中で使えるものです。そういった意味ではPRの仕方は工夫の余地があるのかなと思っております。

○水越会長 そのほかいかがでしょうか。

奥村さん、強調すべき点とか何かありますか。

○奥村委員 奥村です。

私も一応スポーツ団体とはいつつも体育協会のほうから出てきていますけれども、私たちの団体で登録されているスポーツ団体の区民大会をメインに区からの委託ということ

でやっているのです、一般区民に対してスポーツの振興という形というよりは選手に対してということなので、正直今回は難しい内容だったなという話ではあるのですが、それぞれいろいろな初心者向けのスポーツとかということ、もちろん各団体協力ということはさせていただいているので、今回もお話で出ていたように、初心者とか子供たちのスポーツに触れるということでは今後とも協力をしていきたいというふうには思っています。

○水越会長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

黒木さん、お願いします。

○黒木委員 黒木です。

生涯学習のほうでも「いつでも、どこでも、だれでも」という言葉が使われていまして、スポーツのほうでも同じものがあるのですけれども、ここで言うスポーツというのをイメージしたときに、「だれでも」の一人としてどう参加できるのかなと思ったとき、競技スポーツみたいなことばかりなのですか。先ほど健康は別と言われてしまったけれども、年齢の高い人が多い中でどうなのでしょうね。先ほど水越先生は坂を歩くのでもいいのではないかというのがあったのですけれども、あの種もアカデミーレベルのスポーツに入らないのでしょうか。ちょっと外部でこんなことを言ってしまうと済みません。

○木村課長 先ほど奥村委員がおっしゃったのは、自分たちが関係しているところはそういう競技団体のものが多いですよというだけであって、実はスポーツ振興課、アカデミー計画の中にもいっぱい書いてあるのですけれども、初心者向けから高齢者向けからというさまざまなスポーツをやっておりますので、競技だけというわけではないということは御理解いただければと思います。

○水越会長 それでは、大体スポーツのほうに関しては、今、議論をさせていただいたようなことでよいかと思います。また何かございましたら、後で戻ってきてお話をさせていただくことも可能かと思いますが、続いて3番目の文化芸術のほうに進みたいと思います。

説明をお願いいたします。

○竹越課長 それでは、文化芸術ですが、これはスポーツと一緒に分科会で議論をさせていただきました。

柱は大きく3つございます。

まず1つ目は、「だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり」ということで、意見の多くの中では文化芸術に親しむ機会はとても充実しているというような意見がありました。そういう中であっても既に参加したことがある人以外にはとてもわかりづらい。チラシなどをつくって配布しているけれども、それも重要であるが、各種ばらばらに配布されているだけではこれまでのファンにしか届いていない。そのような意見がございました。

今の時代に合わせて、スマホ等を利用したウェブの充実など、時代状況に応じた情報の提供の仕方が急がれるのではないかというような意見がございました。

2つ目として、「文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援」ということで、文京区では概して座学と言われるような、座って先生の講義を聴くというのは非常に人気があるのだけれども、自分たちから何かをつくり出したり、つくったものを表現するような場というのが決して多くはないのではないかと。中には楽器等の演奏を提携事業している楽団などが中学校とか外に出て行っていただき、実際、中学生の前で演奏するような形で興味を持ってもらったり、そういった直接指導を受けたり、プロの人たちに直接指導を受けるというのは中学生にとっては非常にいい機会ではないか。それは将来的な人材育成に役に立っているのではないかとというような意見がありました。

そういうことから、次の世代の観客層の育成とか若手芸術家の発表の場などを提供する、そういった検討というのはこれからも求められていくであろうということ。

また、区内大学や民間企業等との提携や、それぞれの持っている施設等をうまく活用するなど、新たな時代状況に応じた情報提供の仕組みづくりもあわせて必要であるという意見がございました。

3つ目として、「『文（ふみ）の京（みやこ）』の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり」ということで、主にふるさと歴史館友の会というのがございまして、その友の会の人たちによる「まち案内」とかボランティアガイドが、先々自分たちの地域の自分たちの文化資源を多くの人に伝えていくのだ、そういった思いがグループ化になって、事業をつくって、それは人にも伝えるし人材育成にもつながっていくという形で、そういった活動の支援が非常にいいのではないかとということと、新たにつくったミュージズネットのマップは古典的だけれどもわかりやすいという話。

それから、区民を交えた名所再発見のワークショップ方式を新規の事業として実施して、それは始めたばかりのことではあるけれども、そういった新規の事業に取り組む努力というのは非常によいのではないかと意見がございました。

ただ、「課題と今後の対応・方向」としては、観光地とか名所・旧跡をパターン化、固定化、これはこういうものだというふうに決めつけてしまっていて進めていくことがないような工夫が必要である。

文京区には、時代ごとにさまざまな歴史があり、事業を通じてそれらを有機的に取り上げていければよいのではないかと。

先ほどスポーツの中でもありましたけれども、一例を挙げると、区内に多数存在する坂を活用して、スポーツや観光とうまく連携をするような中での新たな事業を興すということも一つ考えられるであろうという意見もございました。

説明は以上です。

○水越会長 ありがとうございます。

ここもスポーツに続いて私が取りまとめていたのですが、10ページのところに総括がございまして。比較的直截的な言い方をしているのですが、概要を申し上げますと、文京区はしっかりした歴史がございまして、芸術的な背景もありますので、そういうものをう

まく利用した活動がなされています。スポーツとはまた別の意味で充実したことが昨年度もなされていたということは評価できるだろうと思います。

その上で、繰り返しになりますが、やはり広報や情報提供の仕方をもう少し工夫する必要があるだろうというふうなことが共通して意見として出てきました。

それから、もう1点は、文京区が古い町、伝統のある町というふうになったときに、その伝統とか歴史というのが比較的パターン化してとらえられて、場合によってパターン化された歴史というのが区民の日常生活と余り結びついていないような場合もあります。区の中の歴史であるとか名所であるとかというのはいろいろな角度から考えることもできますので、そういうものを参加型で、要するに区民の皆さんと一緒に新たに上げていく、そういうような方向があるのではないかとということを議論していました。

このあたりは生涯学習のほうで出てきた新しいタイプの生涯学習のあり方とか、さらに一歩進んだところでの生涯学習のあり方という話と非常にかかわるところではないかというふうに思います。

参加してくださっている皆さんのほうからいかがでしょうか。あるいは、ここで初めて見るという方から何か御意見がありましたらお願いいたします。

後で総括でもう一遍戻ってこようと思うのですがけれども、なかなか難しいところで、これは私のほうでも書き方として、スマホとかSNSとかそういうものでやっていたら、逆に言うと、それでオーケーだみたいにとれる部分もあるかと思うのですがけれども、全然それでオーケーではないです。では、テレビとか新聞でいいかというのと、それだけでもだめ。これは日本全体でも世界全体でも同じことが起こっていて、今までと同じようにテレビを見て、新聞を読んでという感じだけでは世の中のことがとらえ切れなくなっているわけですね。だけど、SNSとかだけ見ていれば世の中のことが深く知れるかというのと全然そうでもない。この間の断絶がすごく大きくなってきていて、では、スマホでもってSNSをみんなが見ているときにマスメディアがどうすればいいのかとか、あるいは、フェイスブックとかツイッターというのが、今までは自分たちが情報を載せるだけの企業で、何が載っているかというのは、ヘイトスピーチだろうが何だろうがオーケーですと言っていたのですがけれども、それでは済まなくなって、フェイスブックがメディアとしての公共的な器だという認識を持たないといけない時代になってきているのですね。でも、なかなかそこはうまくいなくて非常に過渡期だと思います。

この数年の間にその間の断絶が深まるのか、それとも何かうまいぐあいに折り重なっていくのか、ここは非常に難しいところなのですが、片一方でそういう大きい企業とか何か技術だけではなくて、地域の中でそれをうまく結わえていくというか、自分たちでそれをうまくコントロールしていくというやり方はあるわけですね。そこら辺が一つ大きい課題だろうというふうに思います。

ただ、やはり我々が思っているよりもはるかに変化が深いのですね。しばらく前に言いましたけれども、2015年の僕の同僚の調査では、全国で少なくとも20代までの日本人は、

テレビを見る時間よりもスマホで動画を見ている時間が長くなりました。ですから、皆さんのお子さんやお孫さんの世代が、テレビよりもスマホで動画をよく見ているというのが日本の状態で、でも、一定の年齢より上の人はそれを知らないのですね。そんなことが起こっているはずはないだろうと思うのですけれども、スマホで何をやっているかは親でもよくわからない。テレビだと何を見ているかはわかるのですけれども、これで何を見ているかわからないもので、そういう状況になっていて、そういう大きい流れの中にこの文化芸術も含めたアカデミーでの諸活動が置かれている。

そうすると、これまでのやつをより頑張るということだけではどうしようもないところがあって、でも、これまでのやり方を全部捨ててしまったらいいか、全部スマホでいいか、これもちょっと違うという悩ましいところにあって、多分世界中の皆さんがこういうことについて悩んでいるのだろうというふうに思います。余計なことでしたけれどもお話ししました。

○田中委員 これは文化芸術だけではなくて、生涯学習とかほかの分野も当然同じようなことだと思えるのですけれども、今回計画の中では当然ですけれども、行政が絡む問題であったり、行政が把握できているものについてどうしようかということを検討してさらによくしていくということになると思うのですけれども、文化芸術という行政と関係なく行われているものは相当多いと思いますし、特に8ページの終わりに「若い人の鑑賞・創作などの文化芸術への参加が少ない」と書かれていますけれども、1つは、やはり中高年になってゆとりが出てこない、ばたばた忙しくやっているうちはそんなゆとりはないので当然参加が少ないというのはありますけれども、もう一つは、公的なセクターと関係ないところで随分いろいろな若者たちの文化芸術的な活動というのが広がっているというのがあるかと思うのです。特に文京区という地域を超えたところで当然つながっているのだと思うのですけれども、そういうものについて、このアカデミーの計画ではどういうふうに関係するかしないかとか、そのあたりはどうなのでしょう。

要するに、行政側でやっているのが大体全体の7割8割を占めていれば、行政が頑張っていればある程度いくというのはあると思いますけれども、もしかしたら行政が関係しているのが2割3割だとすると、行政が小さいところで頑張っているけれども、世の中全体がもっと別のところでわあとなっているのだとすると、とてもマイナーなところで行政が関係しているというふうにもなりかねないので、これは極端な言い方ですけれども、その辺のこれまで行政が把握していなかった、あまり関係していなかったところで広がりを持ってきつつある文化芸術分野について、行政としてはこれからどういうふうなスタンスをとるか、あるいはとらないか、その辺はどう考えたらいいのでしょうか。答えがなく聞いているので申しわけないのですけれども、特に芸術文化というと、かなり民の部分でいろいろな広がりがあるのかなと思ったものですから。

○黒木委員 生涯学習のほうでも学習した人たちが次のレベルのことを目指したいという話がありますよね。この文化芸術の話ですけれども、芸術のほうはちょっと置いておいて

もらって、文化というものはつくるものだとしたら、生涯学習の世界でつくる人たちが出てきて当然だと思うのです。そこで行政も含めてできたらいいなど。現状はうまくいっているのですけれども、先々の課題として、水越先生がおっしゃった、いわゆるITの時代の、今、どういうことを学んでおかなければいけないかというのを、年寄りの使えない人たち、その世界にいない人たちも対象ですけれども、若い人たちについてもやたらと見ているのではなくて、ちゃんとくだらないものはくだらないと判断できるような力をつけさせるという学習もあると思うのです。子供たちは喜ぶと思いますよ。若い人をどうやって引き込むかと私たちもしゃべりましたけれども、古い文化だと今は後にしてくれと言われてしまうから、まず、これからいろいろな人間と同じ形のロボットもできてきて、物をしゃべって何かし出すのですから、子供たちはそちらのほうに目が向いてしまいますから、時代の話でテーマをつくって応援したら、文京区で新しい文化ができるのではないかと思うという感想です。

○竹越課長 文京区には基本構想がありまして、10年後を想定した「将来都市像」を「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」と定めて、それを一つの目標としてさまざまな個別計画がある。その中の一つとしてアカデミー推進計画があり、この計画は、「区内まるごとキャンパスに－『文（ふみ）の京（みやこ）』、豊かな学びと交流を生み出すまち－」という計画です。皆さんにもアカデミー推進計画をごらんいただいて、御議論をいただいていますけれども、多数の事業は、基本構想の将来都市像を見据えて展開されているということです。

ですから、事業によっては時代に合わなくなって何かと統合する事業もありますし、新たに生み出されていく事業もあるという中で、大きい考え方としては4つの共通目標、「環境」、「人」、「つながり」、「価値の協創」という形で大きい目標を持っているいろいろな事業展開をしているというところです。

難しいのは、どこまで自治体がそういった事業を展開していくかということもありますし、また、どこかの層だけにポイントを絞ってやるべき施策のタイミングなのか、それともポイントを絞らず全ての世代に対して施策を展開していくべきタイミングなのかというのも、時代によって違っていきのかなと思っています。

ですから、皆さんで御議論いただいてまとめてつくっていただいた「課題と今後の対応・方向」を拝見しますと、そういった先のことを見据えた御意見をいただいているような部分も多々見受けられますので、そういった意味では事業課にフィードバックしたときに、すぐには事業化されるかどうかは別ですけれども、考え方としては非常に参考にさせてもらえるものになるのかなと思っています。

○水越会長 ありがとうございます。

幾つか全般的な話も出ていると思うので、また後で総括のところでお話をさせていただきたいと思います。今、非常にいいポイントが出てきたかと思いますが、分野を超えた内容も多かったかなというふうに思います。

それでは、続いて4番目になりますけれども、観光です。これについて御説明をお願いいたします。

○鈴木課長 観光・国際担当の鈴木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

11ページ目、4番の観光について御説明をいたします。

こちらは全部で55事業ございました。それを3つのカテゴリーに分けて御議論をいただいているところでございます。

まず、1番目、「観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出」で取り組み状況の評価をいただきました。このシビックセンターの25階展望ラウンジが観光拠点化ということで、展望ラウンジも一つの観光資源ととらえまして、昨年11月に3日間、展望ラウンジではあるのですが、そこでお酒、おつまみを出すようなイベントを実施いたしました。これによって通常時より50%来場者が増加しました。

それから、3行目、サブカルチャーと連携した新江戸川公園周辺地域の魅力創出事業、現在、新江戸川公園は肥後細川庭園と名称を変えていますけれども、こちらにつきましてもサブカルチャー、スマートフォンのオンラインゲームとかアニメと連携した事業をすることによって、今まで区内の観光というところでどうしても50代60代以上の方が多かったというイメージがあったのですが、20代30代の女性の観光客も来訪することができまして、このあたりを評価していただきました。

これらの課題につきましても、区の特性を活かした文化・伝統、こういった体験型のツアー、イベントもできるのではないかと。さらには、近隣自治体との連携も強化を進めることが望まれるという御意見をいただきました。

それから、さまざまな事業を展開していますので、そういったものの一定の整理と新しい事業の創出、こういったものも進めてほしいというような御提案をいただきました。

続きまして、2番、「情報の収集・活用による来訪の促進」の部分につきましても、区の観光協会のホームページが昨年リニューアルいたしました。それから、区としましても観光協会としましてもSNS、フェイスブック等を使いまして周知をしております。

それから、文京区とゆかりのある自治体、具体的に言いますと、盛岡とか島根の津和野町との連携事業、こういったところはお互いの自治体の相乗効果も見込まれて一定の成果を上げているのではないかと、こういった評価をいただきました。

これにつきましても「課題と今後の対応・方向」ですが、スマートフォンが普及しておりますけれども、こういった方たちはそれぞれ自分が情報を収集してさらに拡散していくというようなことをされている土壌がありますので、今後はそういった若い世代の方たちのニーズを把握して事業を展開する必要があるのではないかと、この御意見をいただきました。

1枚おめくりいただきまして、3番、「持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり」につきましても、案内標識も計画をつくっておりますけれども、案内標識や区有施設、コミュニティバスの「Bーぐる」、それから、観光に関してはさまざまなパンフレットを

作成しております。こういったものの多言語対応が進んでおります。こういった来訪者の急増が予想されますので、ホスピタリティーの醸成に取り組んでいるところについては評価をするというものをいただきました。

これに対する「課題と今後の対応・方向」ですが、東京2020オリンピック・パラリンピックが3年後に控えております。それに向けて観光まちづくりをどのように進めていくのか、こういったものを明確にして、オリンピック・パラリンピックの際には訪日外国人だけではなくありませんので、区外から多く訪れる観光客、そういった来訪者ごとに対応を進めていくことが必要である、こういった御意見を賜りました。

以上でございます。

○水越会長 それでは、久松先生、お願いします。

○久松副会長 観光分野の総括は13ページでございます。

観光分野と国際交流につきましては、通常のワークショップをとりまして、事務方にはそこを取りまとめ、情報をとってまとめていただいて感謝を申し上げます。

13ページの総括でございますけれども、少しストレートな言い方をしております、観光分野では区民に対する観光というような視点が見られるものがそれなりにありまして、そこを超えて区民以外、特にオリパラを考えて外国人に対する観光、サービス提供・支援という観点から、よりスピード感を持って点検する必要があるのではないかとというふうに思います。それがワークショップの中でいろいろな委員から出てきたのをある程度つらまえているというふうに思います。

特にその点からしますと、2段落目ですけれども、先ほどの御紹介がありました新江戸川公園周辺地域の魅力創出事業、こちらは以前に配られました文京区アカデミー推進事業調査結果では341番になっておりますので、後でござんください。まさにオンラインゲーム及び刀剣の愛好者を中心として、スタンプラリーを使うことで新しい魅力を創出できたというようなものが行われたのは非常にいいことだと思います。

そのような新しい事業をやっていきますと、どうしても事業が非常にふえていって拡散してしまうことも考えられますので、スクラップアンドビルドの精神で相対的にほかの事業よりも効果の低いと思われる事業は統合していくというようなことも模索したらいいのではないかと。スクラップアンドビルドというのはワークショップでも出たキーワードでございます。

例示として観光ボランティア、これは先ほどの調査結果では361番、英語観光ボランティアは374番でございますので見ていただいて、一元化というのは私の名前を出していることですが、そこをこのところをチェックしていくということもよろしいのではないかと。いうふうに総括させていただきました。

このほか概要のほうでも区民のための観光プロジェクトと区民以外のための観光プロジェクトの両方があるので、そのあたりの区分けであるとか、観光というのは特に外国人の方は彼らの日本観光サイトがあって、そこでどんどん自主的に書き込みが行われて、その

写ったところに私も行きたいというような形で、現地語の中で非常に自発的に創発的に行われている。それをどうやって捕まえていくのかが重要なのではないかというような御意見も出たことをつけ加えさせていただきます。

以上です。

○水越会長 ありがとうございます。

それでは、観光の分科会に参加された皆さんのほうから何か補足等があればお願いいたします。

○白井委員 白井と申します。

今、先生がおっしゃっていただきましたように、観光地だけに外国人が来ているわけではなくて、こんなところに何でこんな外国人の塊がいるのかみたいなのが最近よく見られておまして、ですから、文京区全体が観光地だと思ってもいいような感じがします。

例えば、私は目白台のほうなのですけれども、カテドラルを見たら、何を見て、何を見てと自分たちで見て回っているのですね。ですから、文京区の観光協会の中に入っている観光地ばかりではなくて、もっと外国から見た観光地みたいなのところもある感じがするのです。

何が言いたいかといいますと、文京区中に英語の案内といいますか、そういうのをもっと書いてあげたらいいのではないかな。みんな何か見てどこに行っていかがわからなくて、あちらかな、こちらかなと言って歩いていらっしゃる方が多いので、文京区全体にもっと外国の方たちにわかるような標識をつくったらどうかなと最近思っておりました。

以上です。

○水越会長 ありがとうございます。

皆さん、ほかにいかがでしょうか。

○塩見委員 塩見と申します。

私も本当に周辺で大勢の外国の方も見かけますし、他区の方も見かけるのですけれども、歩きやすい町並みというか、ここを歩いていだけで楽しいなというような町並みが少ないですね。ちょっとしたところにベンチがあったり、そういう歩きやすい、もっと歩いてみたいと思わせるようなホットスポットみたいなものをもっとたくさんつくったらどうかなと思うのは、ウイーンに行ったときにも、あちこちにちょっと休める場所があって、そこからまた動いてというような形がとれたので、文京区内もそんなに大きくはないのですけれども、どこかにそういうところを幾つかつくっていくと歩きやすい町並みができて、全体の雰囲気もよくなっていくのかなと思うので、お考えいただければと思います。

○黒木委員 文京区は観光客をいっぱい引っ張り込みたいのかどうかというのが一つあるのではないですか。余り来られたらうじゃうじゃして邪魔ではないですか。そういうのが最終的な形であるのです。来てくれるなという制限をつけている国・地域もあるわけでしょう。今はまだ来てくださいで大いに結構ですけれども、外から来る外国人なんかは、今は迷子になりませんよ。ちゃんと地図を持って歩いていますから。親切にいろいろ案内で

きて裏道でも通れてというのもいいですけども、美しい心ですけども、ほっといて十分だと思うのです。年寄りには知りませんがね。

それから、区外の人たちも文京区に魅力を感じていっぱい来ています。自分たちで歩いていますよ。こちらで応援しましょうかという気持ちを示しても、大体勉強してきましたと言っていますから、観光の考え方を変えたらいいと思うのです。どちらに変えるかというと、文京区民をどんどん外に観光に出すことを提案したいのです。そうするとわかりますよ。これは先の問題でして、現状はよくやっているということです。

○水越会長 今の文京区民を外に出すというのはどういうことですか。

○黒木委員 観光に出すのですよ。観光でもいいから違う文化圏に行きなさいというのを出したら、自主学習ではないですけども、レベルアップすると思うのです。

逆に言うと、海外をよく知っている文京区民はいっぱいいるわけですよ。そういう人たちは割合静かにしているのですね。そういう人たちを別の意味で引っ張り出したいなと思っているのです。

○水越会長 すんでの差で海藤さんが先だったので。

○海藤委員 海藤です。

私は、観光には関係ないですけども、今、おっしゃっていたような外に出ていくというものと、多分文京区に対する利益というものが減っていつてしまうのではないかと考えていて、文京区の外に出ている人というのが非常に多くいらして、そういう人たちの知識であったり、見地をシェアする空間というものが必要になってくるのではないかと、いうふうに思います。

例えば観光に少し絡めてなのですけども、海外の方々がどのようにどういう理由で文京区にいらしているかということを考えてときに、文京区にすごく大きな何か有名な建物があるとかそういうものではなく、私がお会いした中でも比較的下町情緒ある空間というものに触れたかったり、日常生活、どういう生活を日本人がしてきて、今現在しているのかということを知りたいという方が少なからずいるというのが現状であると思います。

そういう人たちをどういうふうに拾っていくかというのが問題であって、それに対応できるような人たちを育てていくということも必要であると思います。

そういう人たちを育む空間をつくることで、日本語のみならず外国語で対応することのできる人々がふえていって、かつ、そういう空間をつくることによって、例えば学生で英語を勉強したいであったり、学生で外国の人と触れ合いたいという人たちのコミュニティーのスペースにもなると思います。

そういうような部分をつくることで、それを通して文京区を知ってもらおうということにもつながりますし、観光に興味を持ってもらうということにもつながると思いますので、そういう観光を通して学生であったり、まだ文京区に興味のない人たちを引き込む環境づくりというものにつながるのではないかと、今、お話を聞いていて思いました。

○水越会長 ありがとうございます。

○佐藤委員 佐藤です。

先ほど文京区に外国人のために英語の標識があちこちに必要だと伺いましたけれども、先日、ドイツ人と話す機会がありまして、向こうは英語で、そんなにたくさんしゃべれなかったのですけれども、向こうの方もスマホがかなり充実してまして、スマホで英語と日本語と変換ができて、それだけでいろいろなことがしゃべれて30分ぐらい会話はできたのです。ですから、向こうからいらっしゃる方というのはかなりスマホを駆使して、日本語に変換していろいろなことを調べていらっしゃるので、そこまではしないかと思えます。

○水越会長 一つデータだけで言うておくと、しばらく前のことになりますけれども、これの1つ前のアカデミー推進計画を立てる前の段階で、区民の皆さんにもろもろのサーベイをして、それをもとにして推進計画を立てていったことがありました。そのときの区民からの要望で一番多かったのは、多言語の表記をしてくれということです。これは区民の方のニーズでそれが一番高いということは事実なので、お知らせしておきます。僕は、それを聞いたときに何という品のいい区民だろうと思いました。

案内標識に関して逆にお伺いしたいのは、これは文京区だけで独自のインフォグラフィックスをつくるわけにはいかないと思うのですけれども、東京都全体、あるいは国全体でありますよね。それはどういうふうになっていますか。

○鈴木課長 平成23年に、まだ東京オリンピックが決まる前までは文京区独自で計画をつくったのですが、オリンピックが決まった後に東京都全体でこういった案内標識をつくっていきこうというプランが出ましたので、今はそれにのっとって、東京都から補助金が出る関係もありますので、今は東京都の案内標識を順次取り入れている段階でございます。

○水越会長 つまり、文京区独自の標識があるというよりも、東京都のものを文京区に配置していくということになるわけですね。

○鈴木課長 方針が少し途中で変わったものですから、まだ文京区独自の案内板もありますし、東京都の進めている案内板も今は併用しているような形です。ただ、これから順次東京都の案内板に統一していくような形になります。

○水越会長 何かありますか。

○鈴木課長 今、特に観光振興は進めなくていいのではないかという意見もさまざまいただいたのですが、区としましては、区の観光協会と一緒に観光振興をこれから先も進めていく考えであります。さまざまな区民の方の御意見もあるかと思うのですが、一応区としてはそのような形で考えております。

あと、スマートフォンを駆使してというような話もございました。それにつきましては、区の情報政策課と協力をして、無料でWi-Fiができるような施設もふやしていくような形で考えております。

○水越会長 ちょっと待ってください。今の点に関して、先ほど僕が言ったことの延長になりますけれども、スマートフォンだけではだめです。標識も必要です。標識もメディア

ですから。スマートフォンだけに頼るということは若者だけをターゲットにすることになって、あるいは、さまざまな障害者の方もいらっしゃいますので、標識というのも手でさわってわかるようなものも必要ですし、要するに僕が言いたいのは、文化芸術でチラシがだめだと言っているわけではないのです。ただ、チラシだけつくっていると、山のようにあるだけでみんながわからない。そうなるとうホームページやケーブルテレビが必要で、こういうマルチの展開をする必要があって、観光に関しても標識もちゃんとやるべきだし、スマートフォンもちゃんとやるべきだということだと思のです。その際、ただスマートフォンでフォーカスして言うべきことは、Googleです。Googleに星が出て、ちゃんとコメントが載ります。ああいうところはちゃんと皆さんチェックをしておいて、これは区の方はチェックしたほうがいいと思います。

先ほど白井さんがおっしゃった、何でここら辺にこんなにいっぱい来るのだろうと見ると、それはちゃんと星がいっぱいついていてというのがわかるのです。それはある意味ですごくおもしろいし、先ほど田中先生がおっしゃった、区の行政の事業を超えた部分の話ですから、それを深入りしろと言っているわけではないのですけれども、それは見ておかないと仕事にならないということはあるのかと思いました。

○佃委員 観光というのは産業と位置づけるか、文化発信の場として位置づけるかという、そういったところで時代が変わりつつあります。特に文京区の場合は産業的観光という意味合いは比較的少ないのではないかと。だから、逆に来た人に文化を伝えたい、日本の一部分の文京区という特性の歴史を含めたものがホスピタリティーを持ってきたら、先ほどのいろいろな表示も、外国のやつがあるね、自分の国のものがあるねというような感じで、日本人はそれを見て、いろいろな国の人がいるのだという、そういうものを看板なりなんなりで感じ取ることになるのですね。

これがスマホ時代に特に必要な、人間が最後に求めるのはそこなのです。だから、ここに行き着くように自然に流れていくスタイル、それはアジアもすごく発展して、日本のまねをしていますから、非常に憧れて来るのです。発展、発展ではなくて、求め始めているのです。

だから、そういう意味で観光という視点は、日本の文化を発信し、次世代の日本人社会を理解してもらう人たちをふやすという視点こそ観光だというふうに思っているのです。その点でもう少し形にはまった観光ではなくて、文京区らしい観光というのは、日本文化の神髄を海外でも知ってもらいたい、そして日本人を理解してもらって、世界の平和なりなんなりに一人でも多く貢献できたらなというぐらいのつもりでできたらありがたいなと思います。

○水越会長 荒木さん、何かありますか。大丈夫ですか。

○荒木委員 今回、観光と国際交流を一緒にやらせていただいたという中、その関連なのですけれども、ここで私も気づいたのですが、前回のアカデミーの中でいろいろな課題もあったかと思うのですけれども、そういう中で国際人をどういうふうに育てていくかとい

う、その国際理解を育んでいくという、これは子供のころからやっていく必要があるのではないか。現在の観光というのも非常に大事なのですが、やはり中長期的に見ていったときに、外国人、あるいは異文化に接する機会をつくっていくということが課題というふうに挙げられて、まさしく今回そういうことだなと感じたわけなのです。

一方で、観光の分野でもいろいろな、今もお話がありましたけれども、小さいころから自分の地域のこと、これは有名な場所であるとか自然であるとかというのもそうなのでしょけれども、いろいろな町のいいところを、自分が胸を張って語れるような観光人材になっていく。恐らく国際人材イコール観光人材というのがこれから必要になっていくのかなという感じがいたしました。

それを今回2つ一遍にやらせていただいて、私も気づいたところなのですけれども、観光財団としてもそういったお手伝いで学校交流みたいなところが、外国の高校生中心ですが、最近小学生も外国からぜひ東京の学校と一緒にやりたいというオファーもありまして、文京区のほうも高校を初め、東洋大学もそうなのですけれども、お引き受けいただいているところもありますので、そういったお手伝いもこれからはしていきたいと思っております。

聞き苦しい声で申しわけございません。

○水越会長 それでは、5つ目の国際交流のほうに入っていきたいと思えます。事務局からの説明をお願いいたします。

○鈴木課長 14ページをごらんください。

国際交流につきましては、33事業、2つのカテゴリで議論をしていただきました。

まず、1番の「国際理解を育む機会づくり」ということで、評価の部分です。姉妹都市等交流事業、姉妹都市等というのは文京区ではドイツのカイザースラウテルン市とトルコのベイオール区というところと姉妹都市、友好都市を結んでおります。こういったところとの交流事業、年に1回2月に毎年実施している国際交流フェスタ、こういった参加者に対して国際理解の推進が図られていることは評価をするといいただいております。

また、今、荒木さんのほうからお話がありました、小中学生、そういった幼少期から国際交流の機会を提供している事業、ドイツのカイザースラウテルンにホームステイ交換事業を実施しております。それから、カイザースラウテルン市長杯の少年サッカー大会といったものについても評価をいただいております。

これに対する「課題と今後の対応・方向」ですが、こういった姉妹都市等交流事業に参加した方には国際理解が図られているのですけれども、参加をしていない方にこれから区内全域にこういった国際理解を浸透させることが必要であろう。そういう意味では情報発信の強化が必要だという御意見をいただいております。

それから、ドイツとトルコと交流をしているわけですが、英語圏との交流についてこれから慎重に検討していくことも必要ですというお話をいただきました。

それから、先ほども何人かからお話をいただきましたが、日本人が外国人に対して文化

を正しく発信できるように、まず日本の文化をしっかりと習得させて、それを発信できる人材を育てていくことが必要であるという御意見をいただきました。

続きまして、2番、「外国人が快適に過ごせる環境づくり」。

まず、評価といたしましては、さまざまなリーフレット、先ほど申し上げた英語観光ボランティア、こういった英語観光ボランティアにつきましては、参加者などから好評の御意見をいただいております、こういった配慮がなされていることについては一定の評価をするという御議論をいただきました。

これに対する「課題と今後の対応・方向」ですが、文京区花の五大まつり、こういったイベント等には多くの外国人観光客が訪れております。こういった方に対しては学生や社会人ボランティアといった方たちの人数も大分多くなってきていますので、こういった方に通訳サポートとか町の御案内といったことを充実させる必要がある。

それから、先ほど観光のほうでも出ましたし、先生のほうからもお話がありましたが、英語観光ボランティア、日本語の観光ボランティア、こういった交流を強める、それから、内容の充実を図っていく。さらには、スクラップアンドビルドといった観点の考慮が必要であるという御意見をいただいております。

最後に、在日外国人の国籍の内訳の変化があるというお話もありました。最近、具体的に言うとベトナムの伸びが大きいという話が出ましたが、英・中・韓以外の言語への対応も検討してほしい、こういった御提案をいただきました。

以上です。

○水越会長 久松先生、お願いいたします。

○久松副会長 15ページになります。

総括としましては、先ほど荒木さんからお話もありましたように、国際交流と観光と一括してやりましたので、非常に関連する部分が多いということがわかりまして、そうしますと、もう少し国際交流と観光のところの業務ですみ分けもあるのではないかというふうに思われます。

国際交流のほうは非常に人員の少ないところでやっただけでございまして、例えば区民のほうのサービスに焦点を当て、先ほどお話がありましたような姉妹都市の交流の重層化、教育との連携、国際交流フェスタ、そういう海外に発信できる文京区というところで、海外からいらっしゃる部分、例えば先ほどありました五大まつりのようなところは、国際交流のほうからだんだん観光のほうにずらして行って、そういう形ですみ分けをするというのも考慮していいのではないかというふうに思われます。

それから、今後非漢字圏になっていく。現在はタイですけれども、その他ベトナムだというのは重要なポイントですので、私のほうも再記しております。

以上でございます。

○水越会長 ありがとうございます。

それでは、国際交流の分科会に入られたか方々から何か御意見等はございますでしょうか

か。

在日外国人は、今、どのぐらいの人数でどういう割合なのですか。

○鈴木課長 人数で言うと9,000人です。今、文京区民が21万5,000人おりますので、人口の4%ぐらいです。その内訳は、今、手元にはないのですが。

○水越会長 いずれにしても、ベトナム、タイの方がふえていらっしゃるのですね。単に興味があるのですけれども、それは何でなのですか。

○佃委員 基本的には、住民登録みたいなことをするときは留学生も入ってきますので、留学生の比率が、今まで中国が五、六十%だったのですが、それは多分あと10年以内に30%に減ると思います。韓国は減って10%を切り、台湾は10%でどっこいどっこい。

○水越会長 済みません、それは人数とパーセントは違うと思うのですが。韓国人が減っているということですか、それともパーセントが減ったということですか。

○佃委員 留学生の場合は、パーセントも両方確実に減っています。在日の外国人の、例えば韓国の場合は在日という言葉を使いますね。今、これも60万人から30万人の時代に入っています。それから、中国は若干ふえて60万から、ブラジルとかは10万から20万。

○水越会長 大体それはわかります。文京区の場合は何で。

○佃委員 文京区の場合は学生がふえているという傾向があらわれる。住民は荒川とかそういうところと違ってきますので、ただ、学生の傾向としては、私どももそうですけれども、ベトナムの人が比較的ふえる。大学のほうは、そこも少しふえるのですが、中国の人の比率はまだ高いという、住民では文京区はとにかく少ないのです。

○水越会長 海藤さん。

○海藤委員 私、ネパール人しかいないバイト先で働いていたことがあるのですけれども、その人たちに話を聞いたときに、どうやら文京区のあたりに1個有名な日本語学校みたいなものがあるらしいのです。なので、多分将来的に文京区内に就業したりという人が日本語を勉強するために来て住んでいる可能性が高くて、その割合が、私が住んでいる地域でもベトナムであったり、ネパールであったり、聞いたことのないような言語の方がふえている印象はすごくあります。

○水越会長 最近、僕らのところで1本博士論文が出て非常におもしろいのは、日本のインドカレー屋の研究なのです。日本のインドカレー屋さん、特に東京のインドカレー屋さんの8割9割はネパール人がやっている。しかも、それだけではなくて1個の村から来ているのです。その村は2,000人なのだけれども、1,000人が日本に来ている。その状況を丹念に調べた力作で、僕はすごくおもしろいなと思ったのですけれども、かつて日本の広島や沖縄のほうからブラジルやハワイに行ったのとある意味で非常に似ていて、実はグローバルにというのは誰でも彼でも行くのではなくて、やはり誰かを伝いながら行くのだなと思ったのです。ひょっとしたら同じ村の人たちが多いかもしれない。

○海藤委員 その可能性はすごいあると思って、あと、インドカレーと言っているけど、これは余談なのですけれども、インドカレー屋さんで食べる賄いは、全部ネパールの郷土料

理なのです。だから、せつかくネパール人がすごい多いので、それだったらネパールの文化を広げるとか、住んでいる人たちがその地域の文化を発信するところをつくっていてもおもしろいかもしれないなど、今ふと思いました。

○水越会長 佃さんは多分御存じだと思うのですが、文京区でネパール料理屋があって、僕はそこのおばちゃんに話を聞くと、涙ながらにインド料理と言わないと誰も食べてくれないと。だけど、ようやく本郷には4軒ぐらいインド料理があるので、ネパール料理に意味が出てきたわけですよ。そうすると、自分がようやくネパール料理屋さんを出せたと。それは加賀藩の江戸屋敷の跡にある東京大学というのは、実は半分は大聖寺藩という藩があったのですが、誰もそのことを覚えていない。大聖寺市という市が石川県にあるのです。その人は、あそこは加賀藩だけではないのだけれどもと言うのだけれども、誰もそのことをわかってくれないみたいなのとよく似ている話で、非常に重要なことだと思います。

○佃委員 追加しますけれども、ネパールとか、多分特定の学校でいろいろ社会的に批判される動きもたくさんあって、沖縄はほとんどネパール人の留学生になっている。今、それが社会問題になっているのですけれども、沖縄で日本語を勉強したら本土に就職するというパターンで起こっていて、食べ物もネパール、これから起こるのは、先ほど言ったようにインド文化圏の場合はカレーですので、バングラディッシュも出てきます。そうすると、みんなインド料理のほうがいいというので、彼らも先ほど言ったようなことでいろいろな複雑な思いをしながら、でも、その文化圏となじんでくるといって、ネパールは仏教ですので非常に親しみがある。だけど、彼らは表には出ないという性格、そういうのをみんな今までのようにネパールの方は好きだとかいろいろなことが出てきて、そういう一生懸命やっている人をどうやってサポートしたりするかとか、逆に行くだけではなくてもいいから、ネパールの人々の観光地がいいですよということをかわりに言ってあげる、そんな町ができるというと思います。

○奥村委員 質問なのですが、国際交流のところと言うと、カイザースラウテルンのサッカー大会というのは承知しているのですが、これは小中学生となっているのですけれども、例えば小中学校に国際交流と称して留学生とかこちらで働いている方が行って交流を深めるということは行っているのでしょうか。

というのも、今度のオリンピック・パラリンピックに向けて、授業でオリンピックを呼んだり、パラリンピアを呼んだり、それに絡めた日本の文化・芸能に触れましょうという授業を小中学校はやっているのですけれども、それに絡めて国際交流というものもたしかあったと思うのですが、何かそんな事業的なものがあれば、なおさら交流と一緒にいいのではないかと気がするのですが、いかがなものでしょうか。

○横山課長 今、オリンピック・パラリンピックという話が出たので、その絡みでいきますと、昨年度の話をごちらでは議論していますけれども、今後そういう方向がふえてくるかなと思います。東京都も実は小中学校向けのオリパラの教育施策で、補助金という形で

はありますけれども、そういうオリンピア・パラリンピアの招待というのは一定の補助金を出して各学校で進めてもらっているという動きがあります。その中で、今おっしゃったように、日本人だけではなくて海外のオリンピア・パラリンピアを呼んで授業を行ったり、お話を聞いたりというのも一部では始まっております。ただ、なかなかつてがあるなしとかそういった部分がありますので、その辺に関しては、今度は逆に文京区では、この後にも出てくるのですけれども、ホストタウンということで、今、出ました姉妹都市であるカイザースラウテルンの関係からドイツを相手国としたホストタウンということで登録をしたところになりますので、今後は区もドイツをとということにはなりますけれども、オリンピア・パラリンピアを呼んで学校に行っていただくという事業展開は検討しているところでもあります。具体的にはまだこれからになります。

○奥村委員 ありがとうございます。

○水越会長 とてもいいアイデアを出してくださったのではないかといいふうに思います。

久松先生のほうから出ました国際交流と観光というのを、これは事務局というか区のほうの負担の関係があると思うので、何かうまい線の引き直しができるといいのかなという、この総評で書かれていることは、今、ここにいらっしゃる事務局の方に向けてという意味ではなくて、長い目で見ても重要なことではないかと思って、いい御意見ではないかというふうに思いました。

それでは、とりあえず5つ終わったところですが、もう一つ「横断的施策」というほうに入りたいと思います。よろしゅうございますか。

○竹越課長 それでは、「横断的施策」ということで説明をさせていただきます。

ここについては、分科会でお話をしたというわけではありませんが、計画全般にわたっての部分になりますので、どちらかというところまで話してきたことが端々に出ていた部分になります。

横断的施策は、主に情報の収集・共有・発信、協働する人材の育成、東京2020大会に向けてというような形での大きい3つの柱を計画の中に示しています。ですから、その辺を勘案して、それぞれの分科会から出た意見の中で重複する部分はあるのですけれども、情報の部分について協働する人材の育成について、あと、東京2020大会についての記載を入れるような形にしております。

取り組み状況の評価につきましては、先ほど来お話のあった部分ですけれども、区の基本的な広報媒体に加えてSNSによる情報提供が増えてきています。

次にインタープリターという言葉がありますが、先ほど増田委員から、生涯学習支援者と言葉を修正する話がありましたので、後で反映させますが、スポーツボランティア、観光ボランティア等、区民との協働が進んでいるという部分です。

それと東京2020大会に向けた取り組みとして、カイザースラウテルン市との関係をきっかけとしてドイツのホストタウンとなって、今後その辺が進んでいく。特にパラリンピック競技の紹介を行って、障害者に対する理解が進んでいる。それについては評価している

という形で、これまでの中から横断的な部分についてチョイスする記載をしております。

「課題と今後の対応・方向」につきましては、先ほど来話のあった部分、新たなメディア環境に即した情報提供、メディア活用に関して抜本的な対策を急がれるということになります。

それとあわせて、情報発信だけではなくて、区内のさまざまなニーズやシーズを探り、施策に反映できるよう情報の収集とか編集にも注力してもらいたいということだと思います。

それと区民との協働につきましては、東京2020大会もひとつの契機として社会的な必要性が高まってきていることから、引き続き人材育成に努めてもらいたいということと、特に文京区には19の大学がありますので、連携を図ってほしい。

それと、最後は書いておいて本当に恐縮なのですが、これは水越会長のほうから出た意見を入れたのですが、つくったほうでも「うん？」というのがあって、言葉を足していただかないとわかりづらいというのがあったものですから、最後は「大学の研究者や学生との連携が本格的に展開していないこともまた、過去の提言同様、重ねて要請したい」ということで、これは調整しないで最後に載せてしまったので、もう少し言葉をわかりやすくつけ加えていただく必要があると思っています。

横断的施策というのは、今、お話ししたような大きく3つの部分につきましてトータルでこれまでの分科会の中からの御意見をチョイスさせてもらってここに記載したというような形でございます。

以上です。

○水越会長 これに関して総評はございませんが、立場上僕のほうからお話をしておきます。

横断的施策というのは何なのかということなのですが、新しく28年3月につくった計画より前のときは何だったかというと、5つから漏れるところですね。5つにおさまり切らないもの、あるいは5つから漏れるところ、だからさまざまなものがあるということだったので、それを今、課長から説明いただいたような感じに変えたのです。横断的領域とか言っていたのを横断的施策という言い方にしています。ここに載せられているのはどの領域でも言えること、どの領域でも大事で、各領域で言うとかどくなるようなことが出てきています。それがこの3つになっているわけです。

特に情報収集・共有・発信等々の話、人材育成の話、これはスポーツだろうが、文化芸術だろうがあるのでここに来ているということになります。それで今の御説明いただいたような内容になっているということです。

それで、課題の最後のところは説明がわかりづらいというよりも直接的過ぎるのでうちよっとなんとかしてくれということだと思いますが、こういう強い言い方をしたことには理由があります。それはなぜかというと、前任の課長のときに、これは私と当時の部長と、僕が話をしていた、前にもお話をしたかと思いますが、結局区内の19の大学とどういうふ

うにいろいろやっているのかと申し上げたら、新年に総長、学長が集まって、ある事務方のトップの人も来て、こういうことを区はやってますみたいなことを言ってやるような会があるという、僕は思わずそんなのは意味ないというふうに言ってしまったのです。

それはなぜかという、大学のトップの人が顔合わせをすることも非常に重要なのですが、そこでは何も生まれないと思うのです。これは私の経験からして、文京区と非常につながりのある大学の先生の研究分野、例えば田中先生のような方であれば、もし文京区の中であれば生涯学習をいろいろなさる場合もありますけれども、でも、やはり量子力学をやっている人は余り関係ないわけです。そういうことで言うと、大学というのはいわば小さな商店の集まりみたいなところなので、あの商店とは仲がいいけれどもということになっているわけです。

一定の予算がついて、19の大学に声をかけて、その中からいいよという大学の関係者に来てもらって、一種の意見交換会を数回やりました。そこには19のうち10弱出てきてくださって、東洋大学もいらっしゃいましたし、東京大学も来ていたのですけれども、そこで行政と私がわかったことは、要するに社会連携の担当の部署を置いているのは東京大学だけだったのです。東京大学だけは部長さんと課長さんが出てきてということだったのですけれども、東洋大学は総務部長さんが出てきてかわいそう過ぎるといふか、総務部長というのは、学生がパクられたりして謝りに行くことから何から全部やらなければいけない人が、あの大きい東洋大学で総務部長さんが出てきていて、要するに文京区と何か連携することについてのリエゾンになる人はいないのか、僕しかいないのですみたいなことをおっしゃって、東洋大学をもってしてそれで、例えば文京学院とか拓殖とかお茶の水とか比較的区との連携が多い大学もあるのですけれども、それはどういう意味かという、先生が何人かの複数の線で結ばれているだけで、大学当局と行政の間でという話ではなかったので、そういうものがないかなと思って集まりをやってみたのですけれども、だめでした。

要するに、大学は大学でめちゃくちゃ忙し過ぎて、やりたいのだけれどもどうやればいいのかわからないし、大学だけで何千人の先生がいるようなところだと、どの先生にどうかということもわからないということになる。逆にアカデミーのほうは人数の少ないところで19の大学からあれこれ自分のところだからやれみたいなのも来るといふ、何とか間に何かをつくりたかったのですけれどもだめだったのです。そういう経験があるので僕はだめだと書いたのです。

だから、強い言い方だと思うので、行政のほうで変えてもらって結構ですけれども、大学との組織的連携が十分に展開していないという言い方はいいところかなと思います。つまり、個別の研究者や学生さんは文京区でいろいろなことをなさっているのですけれども、組織的にはなかなかできない、なかなか難しいところだと思うのです。けれど、できればやる気があって、それなりに区から見れば使い回しがいいところとは、3、4でもいいので連携していくのはすごく大事なかなというふうに思います。

恐らく区から見れば、本部のほうの広報課か何かいろいろなチラシを出すのですけれども、例えば僕の大学だと研究者が7,000人います。非正規の人が3,000人、正規の人が4,000人いる。全く伝わらないですよ。口幅ったいですが、僕に送ってもらうとどわっと行くことができるのですけれども、そのルートというのはフェアではないではないですか。わかりますよね。水越さん経由で何でもやるというのはすごくおかしな話、だけど実際はそういう経絡みたいなものが各大学にあるわけですね。そのバランスみたいなものがなかなか難しいということになると思うのですけれども、やはり19あって、区内まるごとアカデミーという割にはそうになっていないのですよ。そのいらいら感、僕は行政側に立って言っているのではなくて、大学の人間としてまさに「灯台もと暗し」だろうみたいな感じで非常に反省を込めてそれを思っているものですから、ちょっと強い言い方をしたということです。

でも、これは比較的強めに書いておいてももらっても問題にならない、おまえら大学もちゃんとやれよという意味合いを込めているのですけれども、そういう言い方をしてもらえればいいかなと思います。

○田中委員 今の水越先生の言われるのは、私はよく理解できるのです。ただ、恐らく先ほど事務局がおっしゃったのは、要するに強過ぎるからもう少し丸めてというのではなくて、恐らく文の前半と後半が文法上つながっていないということではないかと思ったのですけれども、そうではないですか。要するに、「展開していないこともまた、」「要請したい」というのは、展開していないことを要請するのは変なので。

○水越会長 そうですね。わかりました。

○田中委員 例えば「展開していないこともまた、大きな問題であり」というふうに入れて、「過去の提言同様、これらの改善と新たな展開方策の実現を重ねて要請したい」とか、そういうふうにすると強さが残ったまま提案になるのでいいのではないかと思いました。

○水越会長 大変失礼しました。全くそのとおりです。

僕のほうから言いたいのは、繰り返し言うと、個別の研究者、学生は頑張っているのですけれども、組織的な連携がないのは事実なのです。そこは何かあってもいいかなと思いますが、大変失礼しました。先生、ありがとうございます。そのとおりだと思います。

あのおとき八王子市の人に来てもらって、八王子がどういうふうに関係しているか、八王子は必死なわけです。文京区は別に必死になる必要はないみたいところで、向こうはビルがあって、スペースも持っていて、八王子は全く参考になりませんみたいに小野澤さんとお話ししていて、京都はましてやビルを持っているので無理、京都はビルに大学が入って、京都市といろいろやっているの、それはちょっと無理ですねということになったのですけれども。

○竹越課長 このところは単純に、区と区内の19大学が組織的な形で連携していないというのは前から意見も出ていたところですし、先生の御意見でもよくわかるのですが、その後の「大学の研究者や学生との連携が本格的に展開していない」と。さらっと読むと、

研究者と学生との連携という意味が少しわかりづらいのと、この文章自体がどういう形で区とかかわってくるのかというのが言葉を足さないとわかりづらいかと思ったものから。

○水越会長 それでは、問題がある文章ですので、後でもろもろちゃんと相談をさせてください。ただ、意向は、今、田中先生がおっしゃった文法的な問題と、今言ったようなことがございますので、僕の中では学生もちゃんと、細かく言うと、東京大学では学生は研究者というふうに制度上位置づけているのです。学生は学生で、先生は先生なのではなくて、両方研究をしている人間なので、学部生であっても先生と同じように区の中でいろいろ活動するというのは非常にいいことで、むしろ変な先生が出てくるよりも学生のほうが役に立つみたいなきとがありますから、そういう部分がございませうので併記したいと思ひます。いろいろ後で相談させてください。

○竹越課長 ありがとうございます。

○水越会長 ここまでで6つ出てきましたが、皆さん振り返ってみていかがでしょうか。お願いいたします。

○町田委員 町田と申します。

いろいろお話を伺ひまして、そのとおりでなと思ひますけれども、生涯学習ということと観光ということと文化芸術という話が、やはり底辺では通底してひまして、先ほどどなたかがおっしゃひましたけれども、文化を発信していくというようなことで、文化という言い方で大体整理ができてしまひ。例えば生涯学習の中には区民の実働部隊としてインタープリターがあつて、これが大学と連携していろいろ掘り下げた活動をする。それから、文化という中ではふるさと歴史館友の会というのがあつて、これが高齢者の健康町歩きをやつてひる。それから、観光という中では観光ガイドがいて、区内外から来るお客さんに文京区というか、日本というか、特に文京区の文化を御紹介してひるということ、全部に通底して言えることは、文化にかかわつてひるのが生涯学習であり、観光であり、文化の皆さんなのだらうなというのを感じました。

ですから、ここら辺のところ行政の組織の中で分かれてひても、お互いにはうまく連携して話し合ひが常にできているというか、協調ができてひる姿があれば大変いいのではないかというふうに感じました。

○水越会長 大変重要なことだと思ひます。でも、区としても区分けがされてしまつてひると難しいでしょうね。でも、今、町田さんがおっしゃつたとおりでと思ひます。

よろしくお願ひします。

○竹越課長 御指摘のとおり、本来行政は、先ほどお話ししまひましたが、大もとの基本構想の将来都市像を体現するためにいろいろな施策と、それに対応するいろいろな部署に分かれてひるだけの話で、求めている最終形は1つなのです。その方向に収れんしていくツールとして文化という言葉を使つてひるますがけれども、それはこれまで出てきたいろいろなところに共通する部分であつたり、その一部分を掘り出して形を変えれば、それは生涯学習

だったり、それが本当に伝統文化であったりというような形で、見せ方はいろいろな見せ方があるけれども、おっしゃるとおり、底辺に流れているものは同じで、最終的にそれが求めるのは、言葉で体现すれば、先ほど実施計画の10年後の将来都市像の話をしましたけれども、求めているものがそれだということで、その辺がこの中に言葉としてうまく散りばめられるときっといいものができるのだろうなと思っています。

○水越会長 そのほか皆さん、御意見等はございますでしょうか。あとはよろしいでしょうか。

それでは、全体の総評を17ページに私が書きました。かなり頑張っている。だけど、広報とか情報の部分はちゃんとしろと何度も言ってきたではないかという話ですね。過去何回かやっていて、何回も言っているよねみたいなことです。

もう一つは、参加型の事業等をしっかり進めることで、先ほどの生涯学習で言うところの次の段階に行くようなこともやっていってくださいねということが書いてございます。よろしゅうございますでしょうか。

この段になって先ほどふと思ったことなのですけれども、ここに反映させるという意味ではなくて思ったのは、新規事業を立ち上げるのはなかなか大変だと思うのです。最初に見せていただいたものでも、決して新規事業の数は多くないわけですね。いろいろな事情があってそれをつくられると思うのですけれども、先ほど久松さんがおっしゃったことも含めて言うと、一定新規事業特区みたいな、各分野に1個ずつはちゃんとやるようにして、それが1回だめだからというのではなくて2年ぐらいはやってみるとか、比較的外側から形としてそういうものを押しつけたほうが動きやすいところもあるのかなということにはちょっと思いました。

どの分野かだけはすごくスクラップをしてビルドをするということは、ややバランスに欠けますし、それぞれの課の中では違うと思うのですけれども、予算の何%を必ず新規に充てるとか、諸刃の剣かもしれませんけれども、新規事業にばらばら感があるというか、余り戦略性がないものもあれば、すごく戦略的なものもあってという感じがしていて、要するに今の状況でいいものは生かすのだけれども、一定新しいものをやろうとしたら、少し腕力がないと変わらない。

それは最初の話に戻りますけれども、情報は広報課があるだろうから、アカデミーだけで動かないことは百も承知なのですけれども、それでももう少し動かしていかないとだめだとすると、今言ったように腕力のあるやり方をしないと、要するに具体的に言うと、横断的な施策の中である程度それをしっかりやるとかしないとなかなか動きにくいのかなと。積み上げているものを少し削って新しくするというを現場で考えていっても限界があるのではないかということは少し思いました。それは総評に書きませんよ。

○竹越課長 先生のおっしゃるとおりでして、例えば20年30年前は、それは個人的な課題でしょうということの個人的課題が多く集まると、それはデータとして個人的課題の問題があちこちに出てきて、例えばそれをマスコミで取り上げると国会で取り上げられて、そ

これは国の課題になっていく。子供の貧困というのはまさにそれに近いのか。20年30年前はそれぞれ家庭の問題だからねと言っていたのが、今は国の大きな問題となっている。それはある意味、公共政策とも言えるのかなと思うのですけれども、初めから新規を全部やりましょうというよりは、そういう土壌の中で一つ一つつられていって、積み重ねがあってというものだと思いますので、逆に今回いただいた提言を見ると、多分5年10年先のことを見据えた意見の言い方だったり、割と丸く言っているのを、活かして事業に反映させる課も出てくるのかなと思っていますので、今回はそういった意味で、ワークショップをやっただけにいろいろな御提案をまとめられたのかなと思っています。できるだけこれを生かしていきたいと思っています。

○久松副会長 1点だけ申し上げます。今、課長が5年10年とおっしゃったのですけれども、私の感覚は2年3年ぐらいで。

○水越会長 僕もそんな感じです。

○久松副会長 かなりがらっと変わるのではないかというふうに思っています。そこがシェアできるといいなということが1つ。

もう一つは、今回お話を伺っていて、観光と国際交流のところで俄然議論が盛り上がったのですよね。ここが突破口なのかもしれないという気はします。

ある意味では、文化芸術と生涯学習は非常に淡々とうまくいっているのかもしれませんが、こここのところにまさにそういう時代の変わり目というのがよく見えてきていて、我々各分野から集まってきて、一般から来られた方もかなり議論が白熱したという点もあるかなと思いますので、それをどう入れ込むかはわからないのですけれども、そういうことがきょうの委員会の雰囲気としてはあったのではないかというふうに申し上げます。よろしくをお願いします。

○竹越課長 話の流れで5年10年と言いましたが、確かに2、3年、東京2020大会を契機にはありませんが、ここ数年で大きく変わっていくのかなと思っていますし、私ども担当の課長もそれぞれ部長から御指導を受けて、新たな提案とかいろいろ重点施策を考えていますので、ぜひ御期待いただければと思います。

○水越会長 そろそろ終わりになるかと思いますが、ほかの皆さん、いかがでしょうか。

○海藤委員 今の話の筋とは関係なくなっていて感想みたいな感じになってしまうかもしれませんが、この会を通じてすごく思ったのが、行政と民間がすごくかけ離れているような気がして、行政ありきの民間で、民間ありきの行政で、私たちは多分その間に生きていると思うのですけれども、情報であったりというのが、この文京区から一生懸命発信してもやはり限界があるような気がするのです。

そういう中で、行政が民間と一緒に頑張っていく道というのが可能性としてゼロなのかなというふうに思って、可能性が広がっていったら何か道があれば、そこからもっと情報というのはばあっと広がっていくような気がするのですけれども、どうなのでしょう。

○水越会長 短く言いますが、社会科学の分野では、世の中というものを3つに区

分するのです。1つは資本、経済圏の話です。1つは国家、その下に行政もあるわけですが、それと別にこちらにプライベートな世界があって、ここに市民社会がある。市民社会とか公共の場所というのは、公共施設とか行政とは違う。だから、我々は文京区に暮らしていて、いろいろなコンビニや何かで御飯を食べたり、いろいろな活動をしなから、だけど我々がここで区民として生きている。区民として生きているというのは、別に区に飼ってもらっているわけではなくて、一般市民として生きていてということなので、そういう意味で言うと、我々が生きていく場所はそこにあって、区からもいろいろやってもらい、でも区にも限界があるし、いわゆるプライベートセクターというところにもいろいろ世話になるけれども、そこにも限界があるし、ということですね。その真ん中に我々の暮らしている日常生活があるので、今、それがスマホでどんどんみんながばらばらになったりみたいな問題があって、市民社会の危機みたいなことが言われているわけで、おっしゃっている感覚はすごく当たっていると思いますけれども、そこは踏ん張りどころだと思います。

ただ、それを全て区の人に何とかしてくれというわけにもいかず、区には区の範囲があって、企業にも企業の範囲があって、そういうものがうまく重なりながらやっていくという状況をつくっていくことも、僕らはいろいろやっていく必要があるだろうと思います。

田中さんは御存じだと思いますけれども、東京文化資源会議というのがしばらく前から立ち上がっています。これはオリンピック・パラリンピックがあって、東京のどちらかというところと東北地域の区を連携させて、我々がここでやっているようなことを一足飛びに超えた形で大学とか企業とか行政が観光とかいろいろなことについてやっていくというアクティブな動きです。これはなかなか怪しいところがあると思っていて、田中さん、あれはどうなっているのですか。きょうのこれとどう関係しますかね。

○田中部長 今、先生がおっしゃったところですが、東京大学の吉見先生が具体的には事務的な部分で中心にやっていたのですけれども。

○水越会長 下にいる柳さんですね。

○田中部長 柳さんは事務局なのですけれども、千代田と台東と文京の3区がエリアに該当する区ということで、いろいろな形で大学の先生方なりのお考えでせつかくある文化資源を、西洋美術館が今度は文化遺産になったり、文京区においても谷根千とかそういう形で同じエリア内にあるでしょうか、あとは不忍池とか湯島の界隈をどうするとか、そういう広いエリア、それから秋葉原までつながっていくにはどうしたらいいとか、そういう議論をなさっています。

私どものほうとしては、行政ですので、その議論に全て携わることはできませんので、一部地図の分野で3区で有効に使えるものはないだろうかということで具体的には取り組みをしていて、観光の部分、あるいは区ゆかりの文人なんかも落とし込んだ形で、いずれはバーチャルな形で、例えば湯島聖堂とかを見ますと、そこに情報が深みを増してくるような、そういった地図づくりを行っているということはあると思いますけれども、それとは別に

いろいろな形で先生方がそれぞれの分野で取り組んでいることは承知をしております。

また、それについては私のほうで、オブザーバーではないですけれども、湯島天神の押見宮司なんかも参加されていることもありまして、私のほうでもできるだけ参加をしているところでございます。

○水越会長 いずれにしましても、そういうやや空中戦的な東京文化資源会議というのが走っているということは皆さんにお知らせしておきます。

今、おっしゃった吉見さんというのは、僕の隣の隣の部屋の人で、柳さんというのは僕がよく知っている人なのですけれども、なかなかおもしろいと思いつつ、距離をとりつついるという感じで、これと別にそれが立ち上がって両方でぐちゃぐちゃになるというのは、行政としても僕らとしても余りよくはないなという感じがして、うまいぐあいにこちらでやっていることがそちらに結びつくような形で持っていつてもらわないと、これをせっかく一生懸命やっている意味がないのでという感じ。ただ、向こうは発想豊かにやっていますので、生かせる場所があればいいかなというふうに思います。

済みません、後半、僕がしゃべり過ぎました。時間がほぼ8時半になりましたけれども、そのほか何かよろしゅうございますでしょうか。

ここから先は、先ほどの増田さんから出た文言のこととか、僕が書いた文章のこととか、あとは全体に幾つか調整をしなければいけないところがございます。そこについては私とこちらにいます田中先生、久松先生、事務局の間で調整をさせていただきたいと思います。それでもう一度最終版をつくって、それを皆さんにチェックしていただくという形で進めたいと思っております。事務局のほうで、こういう形でもよろしゅうございますね。

○竹越課長 今、会長がおっしゃったような形で、大方ここで考え方は御了解いただいたのかなと思っています。あとは「てにをは」も含めて、体裁も整えた上で最終的なでき上がりの状態で委員の皆さんにもう一回フィードバックさせていただきたいと思っています。それ以降は関係する庁内の会議を経て各課にフィードバックするほか、区議会に報告してまいります。

以上です。

○水越会長 今話していたのは、修正版を送っていただきますよね。そのときにここを修正したよというのが入っていたほうがわかりやすいですか。それとも、もういいかな。

○竹越課長 できましたら、言葉でここを修正したと明らかにわかるのはそういう形でも書きますけれども、全体の中で考え方を丸めて入れ込んだというのは下線が引きづらいので、その辺はうまく先生方と事務局で調整をさせていただいた上で、基本は変わっているところに下線を引くというような形で。

○水越会長 修正する際に前とどう違うのか見るのが難しいと思うので、違っているところがわかるような形で編集したものを送って、最終的にはそれで赤を消してもらってという形で進めてもらうようにしたいと思います。

○竹越課長 はい。

○水越会長 それでは、今回は5月最終日から7月の半ばということで、以前に比べると結構短期集中でやりました。皆さんにはかなりお忙しい中をお時間とっていただき、特にワークショップを2週連続でやらせていただきましたけれども、御協力をいただきまして、これまでよりはかなりクリアカットな形での評価ができたのではないかというふうに思っております。

同時に、これは必ずしもそれを諮ってではないのですけれども、2つの分野をくっつけることの一種の効果みたいなことがあったかなと思います。国際交流と観光については、もう既に何度か触れられていましたけれども、スポーツと文化芸術も全然違うように見えて、実は指導者の育成とかもろもろ非常に似ているところがありまして、コンパクトにしたことのよさもあったのではないかというふうに思います。そのあたりを含めた差配は事務局の方々にやっていただきまして、毎回大変いろいろ言いたい放題言いまして申しわけございませんでしたが、ありがとうございました。

それから、御参加の皆さん、本当にありがとうございました。私は「灯台もと暗し」にならないように頑張りますけれども、もうなっていますけれども、皆さんとまた別の機会にいろいろお会いして、文京区でもろもろの活動を続けていければと思いますので、これからもどうかよろしくお願いします。

これで会を終わりたいと思います。ありがとうございました。